

## 正副議長就任記者会見 会見録（概要）

日時：平成25年5月16日16時00分～

場所：議事堂6階 603会議室

（質問）まず、お二方それぞれ、就任にあたっての抱負をお願いします。

（議長）本日の本会議で三重県議会第104代の議長に就任させていただきました山本勝でございます。大変重責を担うということで、就任以来少し緊張をしております、長いことはうまくしゃべれなかったという面で、これからは落ち着き払って議会の運営に努力していきたいなと、こう思っております。

就任にあたっての抱負につきましては、昨日の所信表明の中でいろいろ述べさせていただきましたが、特に通年議会をより充実した議会にもっていきたい、そして前山本議長がやられておりましたトップセミナー、これも少しウイングを広げて進化をさせていくようなトップセミナーにさせていきたいなということとか、それから私ども議会はどうしても事務局体制がある面で万全であると議会活動もある意味で充実した議会活動にできますので、事務局をより強化していきたいと思ったり、その他、他県議会との議会交流、議員も含めた議会交流を特に今年は、中部6県ですか、そのところは力を入れてやっていきたい、それと併せて、議長の任期の2年を今回私は1年と表明させていただいて就任させていただきましたので、こんなところを自分の活力にさせていただきながら、この1年間、議長として務めていきたい、こんな思いで就任をさせていただきました。

まだまだ戸惑うところがいろいろあるところで、大変緊張しておりますけど、記者の皆様方にもよろしく願いたい、このように思います。

（副議長）私、107代目ということで、副議長に就任をさせていただきました前田剛志と申します。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

議長同様初めてのことでございまして、緊張気味の中で、今日1日が経過していこうかというところでございます。

抱負につきましては、昨日の所信表明でも述べさせていただいたとおり、副議長の責務としては議長を補佐していくということが最大の責務であると認識しておりますので、このことを最大限実行してまいる決意でございまして。

さらには、広聴広報会議の座長を務めさせていただくということでございまして、これまでいろいろな取り組みを県議会として、開かれた議会を目指しながら取り組みをさせてきていただいておりますので、さらなる内容の充実に

向けて、検討を広聴広報会議の場を通じながら、ご相談もさせていただきたいなと思っておりますのでございます。

責任の重さを痛感しながら、今年1年間、皆様方のいろいろなご協力を賜りますことをお願いを申し上げて、簡単ではございますが、抱負に代えさせていただきます。

(質問) 任期を2年の申し合わせを1年にするという、そのねらいをもう一度お願いします。

(議長) 代表者会議の中でも、私どもの会派の方から出させていただきましたが、議会とそれから当局と言うんですか、行政の担当のところと、ひいては議員と知事との関係でございますけれども、知事はある意味では独任制と言うんですか、一人が選ばれてやるんですから、当然4年間やるわけでございますけれども、議会の場合にはいろいろな選挙区から選ばれてきて、いろいろな考え方なり、地域の要望とか、いろいろな意見を持って、議員として来ておるわけでございますして、それをひとつにまとめて、議会としての合議体として、当局と対峙するというんですか、そういうところの方針を持ってやるわけでございますので、そのところの議長というのは、いかにしてリーダーシップをとって議会をまとめていくかと、こういうことが議長の役目ではないかと思うわけでございますが、そういうことを考えていって、果たして議長が4年やらんらんのか、2年やらんらんのか、1年でええのかというのは、いろいろ考え方があるんじゃないかと思う中で、できればそのことについては、これから議会でいろいろ議論をしていただくという、こういう形で私も提言させていただいておりますので、できれば自分の所信で述べたことについては、1年間です、議会の中でリーダーシップをとらしていただきながら任期を続けさせていただきたい、そんな思いで私は1年任期ということで発表させていただいて、皆さんの信を得たと、今日の結果になったと、こんな気持ちで私は理解させていただいております。

(質問) 任期1年ですけれども、山本議長のご自身の意思というふうな理解でいいんでしょうか。

(議長) 私も市議会の議長を経験させていただいておりました時には、1年制、2年制というのはなかったですけど、いろいろな人材というのが議員の中におみえになりまして、1年完全に燃焼してやるという方もみえますし、2年なり4年なりを自分で決めてやられるという方もおみえになるかもわかりませんが、私は、1年、自分の気持ちをそこにぶつけて1年間やると、こんな形で

私自身で決心をさせていただきました。そんな形でご理解をいただきたいなと思っております。

(質問) あえて1年ということは必要なかったのではないですか。つまり、申し合わせの任期2年という看板は外してないのであって、本来的には2年でも良かったわけなんですけど、それは山本さんが信義則として1年の方がいいという、そういうご判断ですか。

(議長) 私はもう1年を目途に全力でやっていくという、こういうことで思っておりますし、私の感性の中では、1年で例えばこうやって、2年目はある面では他人から見たら前年のことが良く分かってうまくいけるやないかと、こういう感覚でお話される方もみえますけど、私は1年を全力投球でやって、2年目、あまり惰性でいくという形だったら、私は1年で完結をして所信を達成していきたい、こんな気持ちでありますので、今お二方からいろいろお話をいただきましたけれども、最終的には私の意思のもとで、1年を議長任期と決めて完結をすると、こんな気持ちでありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(質問) 議長と副議長にお伺ひしたいんですけど、改めて鈴木県政2年が経ちましたけれども、評価、もし課題をお見つけならばそれについて、コメントいただければと思います。

(議長) 答えになるかならないか分かりませんが、鈴木県政、私の所信の中でも、今年度、県民力ビジョンの2年目ということで、3本の柱で表明されて、この2月会議で予算を組まれて、まさに鈴木カラーとうことで出されてきていますが、新聞なりテレビ等に毎日出ておみえになりますし、フットワーク良く動いてみえて、真剣に三重県政のために向かってみえる、こんな姿勢を私は理解させていただいております、そういう意味では三重県政にとっては大きな力をいただいております、出し切っております、こんな知事ではないかなと評価をしていきたいなと思ひます。そういう思いを持ちましたから、特に議会の方も、知事の方が大変情報発信をされて、どんどん前面に出てみえますので、議会の方も停滞をしておると気後れしますので、それに負けずに情報発信なり、この1年、議会の活動等が県民に伝わっていくような活動をもうちょっとやってみたいなと、そういう面から評価をしますと、鈴木県政、ある面では大変頑張っておみえになるんじゃないかと、こういう思いを持っております。

(副議長) 僭越ではございますが知事の評価ということで、議会でまとめたも

のではなく個人的な私見ではございますが、基本的には今議長がおっしゃられたとおりなのかなと思っております。2年間の中で走り回りながら情報発信もし、いろんなプランニングもしながら取り組みもいただいてきておる形だと思っております。ただ危惧する部分としては、ややもすると、議会の中でも少し課題提起されていますが、少し地に足を着けて、3年目になりますのでやっていっていただければ、さらに充実した県政運営が図られるのではないかなと、こういう一面も少し垣間見せていただいております。また、3年目になってまいりますので、成果が問われる年でもございますし、式年遷宮も含めながらチャンス的一年でもありますので、そういった数字も含めながら、3年目、4年目というのが成果が問われる年になってくると思いますので、十分なチェックもしていきたいなと思っております。

(質問) 議会事務局の機能の充実という形なんですけど、それは職員数を増やすとか具体的な何かはあるんですか。法制局とか、派遣とか、今までやられていること以外に。

(議長) いろいろ私も思っておって、局長あたりにお聞きすると、なかなか難しいところもあるのかなと思いをさせていただきましたが、特に人事権なり、裁量権は知事が持つておみえになりますから、なかなかそれを私の要望でやっていただくというのはなかなか難しいなと思いました。特に、例えば法制局にこちらから派遣をさせていただいておりますけど、交流はできないかなと。向こうへこちらが行くだけでなく、向こうからこっちへ来ていただくぐらいのこともできないかなと思いがらいくと、これも知事もある面では裁量権が出てくるのではないかなと思えますし、増員の問題についても当局の方では職員数を減らすというような部局もあるという流れの中では、議会事務局だけがなかなか難しいなという思いもあるんですけれども、増員とか、交流とか、職員の研修とかいろんなことを含めて、今回私に代わらせていただいたもんですから、少しお話をしてみたいなと、そんなところから事務局の充実等のヒントを得られないかなと、そんな思いをもっておりまして、実現がどこまでできるかということは腹案を持っておりませんが、知事あたりとこの問題について話してみたいと、こんな思いを持っております。

(質問) 職員の中に専門員を増やすとかいう話はあるんですね。それはやられるんですか。

(議長) 専門性のところの職員も増やしていくという面では、これもやっぱり少し知事との話の中で詰めていきたいなと思っております。

(質問) 50票満票について議長のご感想を。

(議長) 私の満票といいますのは、本当に過大な票をいただいたなということで、その票をいただいたということでは責任の重大さを感じさせていただいておりますので、裏切らないような形の中で、議会の円満な運営というのもその票に表われておるのではないかなと、こういうことも思いながら、自覚して議会運営にあたっていきたい。

(質問) 他会派への感謝というのは、当然お持ちになるんですね。

(議長) はい。持っております。ですから、他会派の皆さんのいろいろな考えもございまして、その辺のところを今後いろいろお聞きというんですか、今まで聞いておる面もございまして、そんなところを十分に汲み取った形の中で議会運営をやっていきたいと、こう思っております。

(質問) 副議長の謎の1票の話。感想で。まさか自派ということはないですね。

(副議長) 自分ではないということだけは主張させていただきたいと思います。1票、白票ではございましたが、いろいろと14年間を振り返る中で、反省すべきところは反省をし、またこれからの活動の中で活かしていきたいなと思っております。

(質問) 正直、1票、白票が出たという時に、それなりのショックはおありでしたか。

(副議長) ショックと言いますか、他会派の方のご推薦もちょうだいしておりましたので、議長自身も満票でお取りいただいたというところもございましたので、そういう意味では予想はしてなかったというところではあります。自分自身の不徳の致すところだと反省しておるところでございます。

(質問) 新政みえの中で犯人探しはしていないんですか。

(副議長) そういうことは、犯人探しができることでもございませぬし、そういう必要もないかなと思っておりますので、一切そういうことは考えていない状況でございます。

(質問)議長定例会見はどうされますか。

(議長)まだ副議長と相談をしておりませんが、毎月第1週目の月曜日でしたか、今までどおりの形で議長定例会見をやっていきたいと思います。

(質問)所信表明で1年任期を实践、検証するという言い方をされたんですけど、今の言い方でいうと1年は全力投球して、それも含めてということになってきますね。1年任期か2年かというのは。

(議長)自民みらいの代表者会議の中の提案では、今年と来年いろいろ検証していきながら、任期を1年ということで検証していきながら方向付けを出していきたいという提案だったと思います。ですから、それを踏まえて、私は率先して議長任期1年ということで、それを私自身が1年検証させていただきながら、できれば1年後の検討会になるんですか何かは分かりませんが、そういう会議が開かれている途中の中であれば、その1年間の検証した結果をできれば報告していきたいなと思って、1年任期ということでスタートさせていただいたということです。

(以上) 16時24分 終了